



地区別計画推進研究会を開催！

まちづくりの
ヒントがいっぱい！

各地区の取組がさらに盛り上がっていくようにと開催したこの研究会。12月22日の当日には、区内15地区から地域福祉活動のまとめ役が参加し、自分たちの活動の良い点・課題点・改善点などを分析することで、活動をさらに進めていくためのヒントを探りました。

冒頭に、講師としてお招きした田園調布学園大学の村井祐一先生から「地域の課題を解決するためには、まずは話し合いを重ねることが重要。話し合うことで課題に対する認識がみんなの中で深まり、地域全体で連携・協働して課題に取り組むことができます。」とのお話を頂きました。



その後、「永谷」「野庭団地」「大久保最戸」の3地区の取組発表を聞いた後に、各グループに分かれて話し合いを行いました。話し合いでは、他の地区との比較を行うことで、より客観的に自分たちの活動の分析を行うことができ、どのグループも今後の活動のヒントを得ることができたようでした。

地域のことを
知って

地域の中で
つながりあって

みんなで協力し
支え合う

永谷

身近なテーマで話し合いを活発に！



以前から「支えあいネットワーク会議」で様々な地域課題を協議してきましたが、目的が不明確になり参加者も減少してきたため、平成20年度から住民の関心が高い「防災」にテーマを絞って活動しています。連合町内会との連携を密にしながら、一定の成果を出すことを心がけ、防災グッズの配布や災害時要援護者対策などに取り組んでいます。

Q 会場への問いかけ
地域にある様々な課題をどう受け止め、どう発信していくべきでしょうか？

A.会場からの回答は裏面に…

野庭団地

取り組んでます！ 団地全体でつながりづくり

住民の高齢化や団地の老朽化などに伴う不安を少しでも解消しようと、地区社会福祉協議会のメンバーが中心となって支えあいネットワーク会議で話し合いをし、情報紙を発行してきました。

他の地区の取組や事例なども積極的に取り入れながら活動を進め、今年度は防災組織作りや個人情報の取扱いなどをテーマに講演会や話し合いを行い、参加者・団体も増加しました。



Q 会場への問いかけ
一人ひとりがつながる(孤立しない)ためのツールにはどのようなものがありますか？

A.会場からの回答は裏面に…

大久保最戸

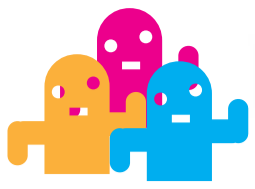
思い立ったが吉日、とにかく何かやってみよう！



地区別計画“住民が共生する和みの街”の推進をどうしたらよいのか悩んでいた時、障害児のお母さんから「障害者に理解のあるお店がふえたらいいな」という話を聞きました。認知症の方や障害者にやさしいお店は地域の誰にとってもやさしいお店ではないでしょうか。困り事や問題を取り上げるだけが計画の推進ではありません。大久保最戸地区では、身近な「いいこと」をみんなに広げていこうと「ハートのあるまちづくり事業」がスタートしました。心に響く当事者のお話を聞く会や、座談会の企画などに取り組んでいます。

Q 会場への問いかけ
連合町内会と地区社会福祉協議会が協力した取組にはどのようなものがありますか？

A.会場からの回答は裏面に…



地区別計画推進研究会 第2部のグループワークの様相

短い時間でしたが、白熱した意見が交わされました！

3地区の発表をふまえ、3つのお題について3地区ひとグループで話し合いました。



お題1

自分の地区で活用・ 応用できそうなこと

- 学校とのつながり作り
- できることからコツコツと
- 達成感を得られることに
取り組もう …etc



お題2

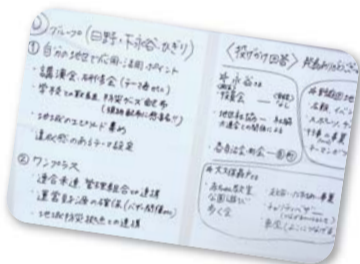
発表地区の事例に 対してのワンプラス

- 地域全体への発信をしては？
- 若い人が参加できるような
曜日設定を
- 優先度・重点度をつけた
取組を …etc



発表3地区には、こんなアドバイスが各グループから出されました。

お題3 発表地区からの 問いかけに対する回答



A 永谷地区さんへ

- ジャンルをまたいだ部会を設けてみては？
- 良い意見が個人・町内会・連合町内会と行き渡るような仕組みづくりをしたらどうか？
- 個々人の問題・悩みに対しての注目もしてみたらどうだろう

A 野庭団地地区さんへ

- 町会ごとや班ごとなど小さな単位での話し合い
- キーマン同士がつながるような行事をしてみても
- 防災キャンプやチャリティフェスタなど、普段の暮らしに身近なものもいいのでは

A 大久保最戸地区さんへ

- 防災は関心を持ちやすいのでAEDや災害時伝言ダイヤル研修はどうでしょうか。
- 商店の人が子どもの見守りもするというのは？
- 学生との交流行事を行い、企画者と参加者の役割分担をするというのいいと思います

主催者まとめ

「地区別計画をどう進めていくか？」どの地区も様々な試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいることと思います。他の地域活動の成功例・失敗例、工夫している点などの情報を共有することで、新たな活動が生まれるきっかけになるのではないかと考え今回の研究会を開催しました。区役所・区社協では、研究会の成果を踏まえつつ、今後も皆様の活動の支援となるようなフォーラムや研究会、研修などを企画・開催していく予定です。

村井先生からのコメント



村井先生

今日行われた活動発表やグループワークから得られた“地域活動を進めていくための心得”を2つのキーワードで表すと「ハードルは低く」「きっかけはたくさん」ではないでしょうか。たとえば、若い人たちの参加や声を反映するために、行事や話し合いを土日に設定する、多くの人を呼び込むために「食」を取り入れる、参加したくなるようなチラシを作るのも良いでしょう。

グループワークの発表では、アンケートを行うとよい、という意見がいくつか出ました。ぜひ取り入れてみてください。アンケートの作成や分析は難しい印象があると思いますが、ケアプラザや区社協あるいは区役所に相談しながら一緒に考えていくとよいと思います。

まちづくりは、身近な住民どうしのふれあいと理解による「地域の今を知る」ことから始まります。地域の声に耳を傾け、実態を知ることが相互扶助や共助の出発点になります。また、地域の特性にあった活動を地域に密着して行うことで、活動者も手ごたえを感じることができるのではないでしょうか。

参加者の声

- 自治会町内会・地区社協などの関係者が共に参加できたことは、今後取り組むうえで有意義でした。
- 「結果が出る実現性のあるテーマ」「みんなで話し合えるテーマ」に基づいた取組が良かったです。
- 他地区の発表を聞くことにより、自分の地域で「活用、応用できそう」なことが分かり合え、一歩進めるきっかけとなりました。
- ハートフルな話、地域の人の興味を引く良いきっかけになるとと思います。身近なエピソードが講演会になり住民が共感できることが素晴らしい。